

# 2050年の日本の財政と社会保障制度の在り方を考えよう

新庄市立明倫学園教諭 9学年 野川 峻海

実施年月日：令和4年12月及び令和5年1月 69名

## 1 実践計画・指導のねらい

今回の授業を計画するにあたって、はじめに日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を学習した。その上で、財政の現状や少子高齢化社会など現代社会の特色などを踏まえながら、受益と負担の均衡のとれた持続可能な社会保障制度の構築を考えさせた。生徒たちは、昨今の物価高の影響もあり、税金の「増税」や「負担」といった言葉に対してマイナスなイメージを持っている。そこで税の必要性と社会保障の安定化を図っていくことの重要性を理解させるとともに、持続可能な財政と社会保障とは何かを考えることを指導のねらいとした。将来の納税者としての自覚を高め、主権者としての関心を深められるようにしたいと考えた。

## 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・「私たちの生活と財政」 税金の種類や納め方の違いについて確認するとともに税金を納める必要性について理解を深める。	○ <u>税金にはどのような種類があるのか?</u> ● 様々な税が身の回りを知った。特に所得税は、所得に応じて課せられる税の負担が違うことを初めて知った。 ○ <u>なぜ税金を払わなければいけないのか?</u> ● もし税金を払わない世界に生まれたら、警察や消防が有料のサービスになることに驚いた。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) DVD教材「ご案内しますアナザーワールド」(国税庁)
2	・「財政の役割と課題」 日本の社会保障制度の仕組みを理解する。	○ <u>日本の歳出内訳において一番大きい社会保障とは何だろうか?</u> ● 身近なところに税金が使われていることが分かった。特に新型コロナウイルスのワクチンが無料である理由が分かった。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 副教材「私たちの暮らしと税」
3	・「社会保障の仕組みと少子高齢化と財政」 少子高齢化による財政への影響を理解する。	○ <u>少子高齢化は社会保障制度にどのような影響を及ぼすのか?</u> ● 現役世代が納める保険料の負担が年々大きくなっている理由がわかった。またこの問題は他人ごとではなく、自分たちに直結する問題であることを知った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2022」(とうほう)
4	・「2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考える」 約30年後の財政と社会保障制度の在り方について議論する。	○ <u>2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えよう</u> ● アメリカやフィンランド、フランスの社会保障制度の在り方を知って、日本の社会保障制度の特徴を知ることができた。また、どの社会保障制度もメリットとデメリットがあることを知った。 ● 大きな政府を維持するのか、小さな政府に変化するのか、ヨーロッパ大陸型のように所得に応じた社会保障にするのか、グループで話し合ったがまとまらず難しい問題だと思った。今後、日本はどのような政策をしていくのか興味を湧いた。  □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2022」(とうほう) 副教材「私たちの暮らしと税」

### 【指導のポイント】<<1時間目>>

レシートなどから身の回りに様々な税金が存在していることに気付かせた。また、公平で公正な税負担のために様々な税金の納め方が存在していることを理解させた。さらに、DVDを視聴し、税金が果たしている役割について気付かせた。特に、当たり前存在している学校や道路などの社会資本、警察や消防といった公共サービスが税金によって成り立っていることなどについて理解を深めた。

### 【指導のポイント】<<2時間目>>

社会保障の4本柱と関連の深い写真を用意し、私たちが日常生活の中で様々な社会保障制度を利用したり目にしたりしていることに気付かせた。

### 【指導のポイント】<<3時間目>>

少子高齢化が進むことで、働く世代の負担が増えることに気付かせた。

### 【指導のポイント】<<4時間目>>

2050年の日本の総人口が約1億人となり、20~64歳と65歳以上の人口比は1.3:1となることが予想されていることや社会資本の老朽化が進み、建て替えなどが必要となることなどを資料から気付かせた。その上で、2050年の日本は高福祉高負担の社会を目指すのか、または低福祉低負担の社会を目指すのか、所得に応じた社会保障を受けられる社会を目指すのかなど、いくつかの選択肢を示し、議論させた。生徒自身も43歳の自分を想像しながら、自分事として考えた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ レシートや写真資料など身近な資料から税について学ぶことで、財政や社会保障制度といった難しい問題に対しても自分事として考える姿が見られた。
- ◎ 2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えた際に、色々な国の財政や社会保障制度を紹介し選択肢を与えることで、グループでの話し合いが活発に行われた。また、2050年は生徒自身も43歳と保護者の年齢に近く、イメージしやすかったように感じる。
- ◆ 2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えた際に、時間が足りず生徒の活動を制限する場面があった。生徒の活動時間を十分に確保できる単元計画を作成する必要があると感じた。
- ◆ 夏休みに税の作文を課題としているが、税に関する授業は中学校3年生の12月ごろのため、理解が浅いま作文に取り掛かっている現状がある。そこで、今後は指導計画を工夫し、財政や社会保障制度を学んだうえで作文を書けるようにしたいと感じた。